

日本鐵鋼協會記事

理事會 (昭和13年度第2回)

開會日時 昭和13年4月6日(水)午後5時開會6時30分閉會

出席者

- 理事 齋藤 大吉 渡邊 三郎 松下 長久 吉川 晴十
- 監事 濱田 彪
- 前會長 俵 國一 河村 驥 水谷 叔彦
- 常務委員 山田良之助 鹽澤 正一

協議事項

- 理事會務分掌の件
決定
編輯及研究 渡邊 三郎 吉川 晴十
庶務及會計 松下 長久 山縣 愷介
- 服部博士記念資金委員會委員推薦の件
決定
委員長 ○齋藤 大吉 幹事 渡邊 三郎 松下 長久
吉川 晴十 山縣 愷介
委員 今泉嘉一郎 井上 克巳 服部 漸 長谷川熊彦
○二階堂行健 本多光太郎 河村 驥 川上 義弘
片山謹一郎 景山 齊 俵 國一 村上武次郎
梅根常三郎 黒田 泰造 ○藤井 寛 伍堂 卓雄
荒木 宏 ○澤村 宏 水谷 叔彦 島岡亮太郎
(○印は新任者)
- 第20回講演大會開催の件
決定
開催地 大阪市
時期 10月中旬
- 第17回研究部會議題選定
決定
部門 銑鐵部會
議題 熔鑄爐熱勘定
- 編輯委員の件
次記6氏を委囑のこと
石田四郎 銅金義一 荒川直三 網谷俊平 齋藤彌平 志村繁隆
次記2氏は御本人の都合上委囑を解くこと
足立泰雄 長尾武雄
- 日本工學會評議員決定の件
決定 齋藤會長
- 入退會者及會員異動

會員異動總計表

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
新入會者數			1	10	20	31
退會者數				-1	-1	-2
死亡者數	-1					-1
現在會員數	15	45	18	1,077	1,272	2,427
前月と比較	-1	異動なし	+1	+8	+19	+28
退會者氏名	正會員	三宅川百太郎		准會員	石井清兵衛	

死亡者は故香村博士にて前號掲載の4月5日逝去は4月4日の誤なり茲に訂正す。

編輯委員會 (昭和13年度第1回)

開會日時 昭和13年3月21日(水)午後5時開會同7時50分閉會

出席者 水谷會長

- 委員 石原 善雄 池田 正二 田中 清治 山田良之助
- 三島 徳七 鹽澤正一

協議事項

- 鐵と鋼第24年第5號上掲論說原稿選定
決定原稿
(1) 酸性電氣爐操業成績に就て 藪内周三郎
(2) 大型鑄鋼品鑄造法の研究 結城 竹治
(3) 特許特殊耐蝕性合金鋼に就て 大倉 幸雄
(4) 滲炭平衡及び鐵-炭素狀態圖に就て 眞殿 統
(5) 構成用特殊鋼材の物理的性質に及ぼす
W. Mn. V. の影響 菊田多利男 芥川 武
(6) デュラルミン及び超デュラルミンの海水腐蝕に
依る疲勞強度の減少に就て 五十嵐 勇 深井 誠吉
- 鐵と鋼第24年第4號上掲抄録原稿選定
決定頁數 約10頁
- 昭和12年度會務報告原稿作成
- 鐵鋼要覽編纂に關する件
到着原稿整理上一覽表として提出すること
- 第23回通常總會, 第19回講演大會, 第16回研究部會開催に關する實行上の打合 以上

日本鐵鋼協會第16回研究部會第9回製鋼部會

日時 昭和13年4月2日(土)午前9時30分開會

場所 東京市神田區駿河臺2丁目5番地 日本醫師會館大食堂

議題 平爐の熱勘定(Ⅲ)

開會順序

- 開會の辭 水谷會長
- 委員長選舉
- 準備委員の資料整理に付説明 田中常務委員
- 各工場委員資料に就て説明
- 討議要項作成に就て説明 海野委員
- 議題に對し昭和製鋼所の實見方法に就て 福井委員
- 討議
- 閉會の辭 水谷會長

本議題 平爐熱勘定は今回を以て3回繼續せり, 今回の討議要項作成には海野三郎博士を煩した, 其の要項を印刷し各關係ヶ所へ配布し回答を得整理し印刷して本日の出席者へ配布した, 特に今回は前2回分を併せ3回分を一貫したる討議を行ふことを準備委員より提出あり其旨各委員へ通知した故に前2回分の資料をも出席者へ配布した。

先づ午前9時30分會長開會の辭を述べ續いて委員長選舉に入り會長の指名と一決なり, 井上克巳博士推さる。委員長の挨拶後田中委員より今回の提出資料數22の整理の結果を圖示してその大要を説明

あつた、終て各工場提出資料に就き説明あり終て午前11時30分より海野博士の要項作成に就て多數の實例及調査方法に就て多數の曲線圖に付きて説明あつた、終て晝食休憩に入る。

休憩後昭和製鋼所提出資料(印刷物)「平爐の熱勘定に就て附豫備精鍊爐の熱勘定に就て、第3報」に就て福井委員活動寫眞應用詳細説明があつた。外に印刷物資料の提出は川崎造船所製鋼工場より「平爐の熱勘定計算法其3」があつた。

以上終て討議に入り討論續々として盡きざるも委員長立つて本問題は調査上甚だ至難なる故今回を以て一時打切又機會を計り再出することとし次回は熔鑄爐熱勘定に移ること如何と一同に謀り、役員會に一任として今回を終了す。

終りに會長立つて委員長並各委員に對し厚く謝意を表し閉會を宣す。一同大に獲る處あり大満足を表し拍手裡に散解す。

出席者次の通り

Table with 3 columns: Name, Title, and Organization. Lists attendees such as 海野 三郎君(八幡), 島村 哲夫君(八幡), etc.

各工場推薦委員

本會推薦委員

Table with 3 columns: Name, Title, and Organization. Lists members like 井村 竹市君(日鐵), 川上 義弘君(神戸), etc.

本會役員

Table with 3 columns: Name, Title, and Organization. Lists roles like 會長 水谷叔彦君, 前會長 今泉嘉一郎君, etc.

日本鐵鋼協會第23回通常總會

開會日時 昭和13年4月3日(日祭)午前11時20分
場所 東京市神田區駿河臺2丁目5番地
議長 日本鐵鋼協會々長 水谷叔彦
出席正會員數 137 委任狀 481 (正會員總數 1,138)

(1) 議事

- イ, 昭和12年度會務報告
ロ, 昭和12年度收支決算報告
ハ, 昭和13年度收支決算報告
ニ, 會長, 理事, 評議員(半数)改選(投票開票)

(2) 表彰式

- A, 服部賞牌並に服部賞金贈呈式
服部賞牌受領者 日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師 工學士 松原武三郎君
服部賞金受領者 日本製鐵株式會社輪西製鐵所作業部長 理學士 川口 正名君
B, 香村賞牌贈呈
受領者 日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師 理學博士 田所 芳秋君

C, 俵賞金贈呈

- 受領者 技術上優秀論文
株式會社滿洲鑄鋼所常務取締役 工學士 久芳 道雄君
學術上優秀論文
海軍技術研究所理學研究部々員
海軍造兵少佐 工學士 俵 信次君

役員改選當選者

- 理事 會長 齋藤 大吉(新)
理事 渡邊 三郎(重) 松下 長久(重) 吉川 晴十(重)
山縣 愷介(重)

評議員 (○印は新任者)

- 井上 克巳 ○石原廣一郎 長谷川熊彦 小倉 正恒 大村 正篤
門野重九郎 川上 義弘 川崎舍恒三 ○梶山 又吉 横田 文吉
○吉岡 保良 田宮嘉右衛門 中井 勵作 村上武次郎 梅根常三郎
久保田省三 工藤 治人 黒田 泰造 ○栗本勇之助 牧田 環
○松田 義一 松本與三郎 伍堂 卓雄 荒木 宏 ○足立 泰雄
寒川 恒貞 ○紀伊 壽次 澁澤 正雄 ○斯波孝四郎 ○尾藤加勢士

日本鐵鋼協會第19回講演大會

第1日 4月3日(祭日) 講演會 午前之部 午前9時開會
會場 東京市神田區駿河臺2丁目5番地 日本醫師會館大講堂
本日出席者へ配布の爲め準備の印刷物次の通り

- 1. 昭和12年度會務及會計報告
2. 第19回講演大要及び前刷
3. 服部賞牌並賞金, 香村賞牌, 俵賞金受領者推薦理由書
4. 大會出席者名簿

以上受付にて受取り順次會場に入り着席定刻を待り、定刻の振鈴と同時に先づ水谷會長登壇し一場の挨拶あり開會を宣し司會者席に移りプログラム講演第1梅澤工學士, 第2森工學士の講演を司會し吉川博士と交代, 吉川博士司會の下に講演番號第3第4を演了し午前の部終り總會に移る、總會終了後晝食休憩す。

講演會午後之部は1時より開會の處講演番號第5原於菟雄君第7番中村素雨講演者の都合上取止めとなり又他の講演者の都合上プログラムの時間を變更し松下理事司會の下に第6, 第9の講演終り10分休憩, 川上博士司會の下に第8, 第10, 10分休憩, 河村博士司會の下に第11, 第12と頗る順調に本日のプログラムを遂行せり。本日の出席者約400名。

晚餐會 午後6時30分開會 出席者 85名

會場 東京市神田區駿河臺2丁目5番地 日本醫師會館大食堂
先づ主卓には來賓, 服部, 香村, 俵賞受領者, 本會役員着席し全着席するや一同歡談裡に晚餐を取りデザートコースに入るや水谷會長立ち一場の挨拶に次ぎ例に依り數氏の卓上5分間演説あり、最後に今泉博士の發聲にて萬歳三唱干盃, 水谷會長解散を宣し一同拍手大満悦裡に散會せり。本記事の詳細は次號へ掲載することとする。

第2日 4月4日(日) 講演會 午前之部 午前9時開會

本日の最初の司會者吉川博士によりて講演會開會を宣し講演番號第13, 第14, 第15を演了し10分休憩, 10時40分より長谷川博士の司會の下に講演番號第16, 第17, 第18を演了時恰も正午を告ぐ一同食堂に入り晝食休憩。

講演午後之部 午後1時より俵博士司會の下に講演番號第19, 第20, 第21を演了し10分休憩, 渡邊博士司會の下に講演番號第22, 第23, 第24演了10分休憩, 新會長齋藤博士司會の下に講演番號第25, 第26演了し本第19回講演大會講演完了となり。

齋藤會長閉會の挨拶を述べられ盛會裡に解散せり。
本日の出席者約350名。
終りに臨み今回司會者として御盡力を賜りたる各位並に多趣有益なる講演を發表されたる諸氏に對し深甚の謝意を表す。

第3日 4月5日(月) 工場見學

本日は天氣晴朗花將に爛漫見學には最惠の日なり、本見學者の便宜を慮り株式會社東邦旅行協會より乗合自動車借切り16臺を契約し早朝より上野驛前と上野公園の二ヶ所へ分備せり。先づ午前9時先發のA班5臺池貝鑄造所へ向ひ出發、後發は午前10時, 11臺相並び川口重工業指導所へ向つて出發。
先發は池貝鑄造所へ到着同所の歡迎を受け直ちに工場見學し終て

辭去、川口重工業指導所にて後班と合し同所見學終て大日本麥酒會社川口工場に全員集合せり、總員 280 名、先づ 50 名宛一組とし案内者に導かれ、製造作業の洗瓶、瓶詰、打栓、殺菌、商標貼付等の何れも自動機械の運轉より貯藏、醱酵、醸造、仕込等の作業を案内者の懇切なる説明に依り最も感興の裡に見學を了り、再び集合所に入り最も新鮮なる同所の生麥酒の接待を受けながら準備の晝食を喫す終る頃同工場の仲田光三郎氏の鄭重なる歡迎の挨拶あり、之に對し吉川理事立て深甚の謝意を述べ、小憩の後辭去し川口製鐵所へ向ふ。

川口市を大型バス 16 臺をつらね壯觀を呈しつゝ馳ること 10 分間にして川口製鐵會社に到着。

川口製鐵株式會社見學 同社にては社員職員總出にて印刷物の配布、茶菓の接待、配車等至り盡せりの歡待を受け小憩の後案内者に導かれ鐵需要の急に應じ生れたる現時日本最小の熔鑄爐の最も順調

に操業され居るを見學し一同感興大なるを見受けらる、見學終て名古屋鐵工所へ向ふ。

名古屋鐵工所見學 同所にては社長名古屋三吉氏自ら玄關に出迎ひられ歡迎の意を表さる、見學者到着順次數名の案内者に導かれ工場に入り目下材料不足需要尅大の際に處し技術向上と經營の宜しきを見學し一同得る處大なりとす、同所の見學を終りB班は燃料研究所に向ひ他班は順路を替へ東京の名物飛鳥山の花見の狀況を眺めつつ上野驛前に歸着解散せり。

燃料研究所見學 現時燃料國策上最も重要なる諸研究裝置等を懇切なる説明に依り詳細に見學し一同感興大且満足裡に辭去し歸路に着く、途上無異上野驛前に到着解散せり。

終りに臨み以上各所社の御厚遇に對し會員を代表し茲に深甚の謝意を表す次第なり。

新 入 會 者 氏 名 (自 3 月 3 日 至 4 月 4 日)

居 所 又 は 宛 名 先	勤 務 先 又 は 職 業	會 員 別	入 會 者	紹 介 者
神戸市兵庫區會下山下ノ六二(電湊川四七一八)	海軍中將川崎造船所專務取締役	贊 助 員	吉 岡 保 貞君	水 谷 叔 彦 郎
世田谷區新町一ノ一四一(電世田谷二七〇七)	工學士 鐵道省工作局長	正 會 員	紀 伊 壽 次君	篤 叔 次 郎
宇部市株式會社宇部鐵工所	宇部鐵工所製鋼主任	"	川 村 重 明君	篤 太 太 治 郎
群馬縣澁川町字並木(電澁川五六)	關東電氣製鍊會社製鋼部長	"	和 井 内 晋君	篤 清 太 治 郎
島根縣能義郡安來町内濱通一〇九	工學士 日立製作所安來工場	"	多 賀 谷 正 雄君	篤 橋 豐 利 次 郎
熊本縣八代郡八代町建馬	工學士 日本セメント八代工場	"	久 保 覺 君	篤 橋 守 橋 久 太 郎
大連市上佐町朝日寮八八號	滿鐵鑛山鑛業部企畫課	"	仲 澤 雪 男君	篤 野 村 久 太 郎
世田谷區三宿町三九六	川口製鐵株式會社	"	永 井 勉 君	篤 野 村 久 太 郎
目黒區下目黒三ノ五八七	川口製鐵會社庶務課長	"	藤 森 佐 金 次君	篤 橋 篤 橋 篤 橋
麩町區有樂町一ノ一〇	電氣化學工業株式會社	"	飯 田 弘 君	松 間 松 間 松
杉並區天沼二ノ五一八	電氣化學工業株式會社	"	飯 田 弘 君	松 間 松 間 松
宇部市宇部窒素工業株式會社(電八九〇)	工學士宇部窒素工業會社	准 會 員	戸 崎 昭 君	鳥 羽 雄 吉
廣島縣廣海軍工廠造機部鍛鍊工場	吳海軍工廠造機部鍛鍊工場	"	谷 本 積 君	石 川 薰
廣島縣廣村吉松 三田方	"	"	小 島 欽 一君	"
愛媛縣新居濱市金子住友淡親寮	住友金屬工業株式會社新居濱機械製作所	"	小 林 喜 久 夫君	村 松 橋 太 郎
杉並區阿佐ヶ谷六丁目二三三	東京帝大、工、生	"	川 崎 正 之君	田 中 清 治 郎
長野市上千歳町五	新潟鐵道局長野工場	"	高 野 信 助君	太 田 秀 穂 弘
神戸市協濱町神戸製鋼所研究部	理學士 神戸製鋼所	"	平 野 二 郎君	川 上 義 弘
名古屋市東區杉山町三ノ三八	大同電氣製鋼所熱田工場製造課	"	青 山 俊 次 郎君	林 達 夫
滿洲國奉天省鞍山市北九條町一〇	工學士 昭和製鋼所	"	青 山 俊 次 郎君	後 藤 有 一
愛媛縣新居濱町金子住友合宿所	住友機械製作會社作業課第二鑄造部	"	西 村 敏 雄君	村 松 橋 太 郎
神戸市林田區一番町三丁目阪神鐵工所	株式會社阪神鐵工所鑄造課	"	古 我 浩 輝君	白 井 亮 宏
大阪市住吉區相生通三ノ三四	工學士 栗本鐵工所	"	武 藤 千 秋君	澤 村 宏
神奈川縣川崎市東二ノ五	工學士 大同電氣製鋼所星崎工場	"	石 井 芳 藏君	田 尻 秀 男
滿洲國奉天省鞍山市南七條二四ノ二	滿洲住友金屬工業會社	"	岡 功 治君	吉 田 幸 吉
仙臺市東北帝國大學工學部金屬工學科生	東北帝大、工、生	"	山 崎 正 一君	的 場 幸 雄
淀橋區十二社三〇〇末次方	工學士 企畫院調査部	"	木 村 吉 治 郎君	行 方 畝 三 郎
青森縣下北郡田名部町大字田名部三本松	日本特殊鋼管大湊工場	"	清 水 秋 生君	梅 津 七 藏
滿洲國奉天省鞍山市南八條町二四	滿洲住友金屬工業會社製造部作業課	"	津 山 豐 雄君	吉 田 幸 吉
大森區大森一ノ四七六五	工學士 日本特殊鋼株式會社	"	丸 田 隆 一君	澤 村 宏
大阪市大正區南恩加島町	日本製鐵株式會社大阪製鐵所	"	垣 添 健 二君	井 上 順 三

死 亡 者

本會准會員塚本正次君(3月2日)岡田時次郎君(3月21日)以上兩氏の逝去せられたるは洵に痛惜に不堪茲に謹んで弔意を表す